



二葉幼稚園

園のたより

2021年



5月

5月の聖句

あんしんして いきなさい

マルコ5章34節

5月のさんびか

ことりたちは

こどもさんびか改訂版10

動き出す

二葉幼稚園の生みの親である伊丹教会に、春名牧師が就任されました。学年別のイースター礼拝で早速お話をして頂きました。年中長への自己紹介で「先生の名前は夏でも、冬でも春名です。よろしくね」何人かはクスクス。お話が始まり「イエスさまも十字架につけられ、手足を釘で打たれ・・・」と聴くや両手を口に当て肩をすくめて「え？」と固まる女兒、声は出さずとも真剣に聴き入る年長児達。同じように話しても、年中児は個々に声を上げて反応する人、背筋をぴーんと伸ばしたまま、牧師先生をまっすぐに見つめて最後まで集中して聴いている人など様々でした。

イースターの話、2000年後のカトリーナ台風下でのある老夫婦の話、その後十字架音頭を先生が踊り出し、子ども達は大はしゃぎ。年長の中にはクラスに戻ってからも延々踊っている姿もあったそうな。復活のイエスさまとともに、安心して大きく動きだした今年度最初の合同礼拝でした。降園時「お墓が空っぽだったの」と蘇られたイエスさまの話の中で、心が動いた部分をお母さんに話す年中児の姿もありました。

年少の各クラスでは「おはようございます！誰やろうね。ぼく、ぼくし（僕、牧師）」とやはりお茶目な牧師先生。3歳児は皆ポッカ〜ン？本当に口まで開いていました！先生達クスクス。ところがお話が始まるや一生懸命聴こうとしていた子ども達。年少では、あるお母さんが赤ちゃんを産もうとした時のことをイースターと繋げて話して下さいました。一緒にお祈りをして「ばいば〜い」「バイバーイ」とにこやかに閉会。

ご家族と離れ、寂しい気持ちを抱えながら登園する年少さん。毎日ひとり一人の名前が呼ばれ、繰り返しの心地よさの中で、先生達や友達の名前を少しずつ覚えていきます。自分のクラスもわかってきて「大丈夫」そんな安心感が日毎に増しているようです。「〇ちゃんね、ママいなくて寂しいけどもう泣かないの」自分から笑顔で話す姿も見られます。と思えば、最初は泣かなかったけれど、泣いても受け入れ、寄り添う先生達や「大丈夫？」と声をかける友達がいることを知り、安心して素直な感情が出せるようになった姿も見られます。朝はうつつむき、帰りには自然にスキップする姿、覚えてたの友達を大きな声で「❖ちゃ〜ん」と呼ぶ姿など、心が動き出す春です。

コロナは手強く、それぞれの生活が脅かされ、肉体的にも精神的にも極限状態に陥る時、色んな意味で最前線での闘いを思う時、私達にできることを問い続け、子ども達が子どもらしくほっとできる園であるよう、心砕いて参りたいと思います。

新ふたば会もそろそろ始動でしょうか。二葉の歩みがより良きものとなりますよう、皆さまが出来るところで出来ることをとご協力頂ければ心底嬉しく思います。【園長】